

# 土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調査名 一級河川 高梁川水系 学恩寺川 測量設計地質調査業務委託（通常砂防・交付金）

事業名 または 工事名

調査目的及び調査対象 砂防 砂防

ボーリング名	Bor. No. 2	調査位置	広島県庄原市東城町川西 地内	北緯	34° 54' 6.0889"
発注機関	広島県北部建設事務所庄原支所	調査期間	2021年 12月 9日 ~ 2021年 12月 13日	東経	133° 15' 58.9304"
調査業者名		主任技師		現場代理人	
ア	コ	ア	コ	ア	コ
ボーリング責任者		試験機	東邦地下工機 D1-B48	ポンプ	東邦地下工機 BG-3C
エンジン	ヤンマー NFD-12	使用機種			
孔口標高	T.P. 339.14m	角	180° 上下 0°	方位	北 0° 東 90° 南 180° 西 270°
総削孔長	8.00m	地盤勾配	鉛直 90° 0°		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名 (模様)	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色	相対密度	相対稠度	地質時代名	記	標準貫入試験						試験採取	室内位置試験	削孔月日			
											深度 (m)	N値	100mmごとの打撃回数	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量				試験番号	採取方法	試験
0	338.94	0.20	砂質粘土	砂質粘土	粘	灰	r d3		新生代第四紀完新世	耕作土に相当。植物根を豊富に含む。	0	1.15	3	10	8	21	300					
1	337.54	1.60	砂	砂	粘	暗灰褐	r d2		新生代第四紀完新世	細粒分が増し、礫径は小となる。礫分はφ15mm程度以下であり、細砂分が多い。粘土分の含有は少し不規則である。	21	1.15	3	10	8	21	300					
2	336.54	2.60	礫混じり粘土質砂	礫混じり粘土質砂	粘	茶褐			新生代第四紀完新世	有機質粘土と細川砂が等量に混じる。指圧で容易にへこむ程度に軟らかい。	10	2.15	4	3	3	10	300				12/9	
3	336.14	3.00	砂質粘土	砂質粘土	粘	灰	r d3		新生代第四紀完新世	礫分は全体に小径で、砂礫とするか礫混じり砂とするか迷う。ただし、中礫以下の礫分はかなり多い。4.0~4.53mm間は細粒分に混んでいる。岩繊維は認めず、腐植物根の褐色織物を含むため、完全含炭はしないものの、密凝岩強風化土の可能性は低いと判断した。	19	3.15	8	6	5	19	300					
4	334.29	4.85	砂	砂	粘	灰	r d3		新生代第四紀完新世	砂岩とシルト岩の細互層をなす。コアは円盤状から柱状へと急激に変化する。5mまでのコアには、弱いディスキングを認める。	11	4.15	4	4	3	11	300					
5	333.69	5.45	風化砂岩	風化砂岩	粘	暗灰			新生代第四紀完新世	【CL級、軟岩Iに相当する】	188	5.15	50	80	50	80	80				12/10	
6					粘	暗灰			新生代第四紀完新世	礫は20cm以上の柱状コアを呈する。良く固結しているが、コア肌は少し粗く、未風化とするほどのものではない。砂質部はカッターで傷つけることができる(削ることは困難)。6.9~7.15m間は砂岩の薄層である。7.2m以下、礫分が欠けとなる。	5.00	貫入不能			50	0						
7					粘	暗灰			新生代第四紀完新世	【CL級、軟岩Iに相当する】	6.00	貫入不能			50	0						
8	331.14	8.00			粘	暗灰			新生代第四紀完新世	【CL級、軟岩Iに相当する】	7.00	貫入不能			50	0					12/13	
9					粘	暗灰			新生代第四紀完新世	【CL級、軟岩Iに相当する】	8.00	貫入不能			50	0						